



# 奈良県感染症情報

令和4年第52週(12月26日～1月1日)  
令和5年第1週(1月2日～1月8日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## インフルエンザの流行が始まっています

### 今週の概要

- 小児科外来情報 ※令和4年第52週(12月26日～1月1日)

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)(令和5年第1週)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	3.96	(0.80) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.06	(2.88) ↓	↓	↓	↓
3	手足口病	0.29	(0.76) ↓	↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.21	(0.29) →	↓	↑	→
5	咽頭結核熱	0.15	(0.21) →	↓	→	↓

発生状況：大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第52週の新型コロナウイルス新規感染者数は9871名と第51週の11892名より減少しています。令和5年第1週の新型コロナウイルス新規感染者数は12270名と第51週より増加しています。

県民のみまきまには、引き続きの感染予防の徹底へのご協力をお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの定点当たり報告数が、流行開始の目安となる「1」を超えています。県内全域で報告数が急増しており、特に中和保健所管内西部地域からの報告が多くなっています。インフルエンザにかからないために、外出後の手洗い・消毒、適度な湿度の保持、十分な休息とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控える、室内ではこまめに換気するなどの感染対策を心がけましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

年末の休診日があるために、新型コロナウイルス感染症以外は診えない。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19陽性者が急増、家族内感染も多く感染力は強い印象。

症状は短期の高熱で軽症経過がほとんどであるが、無熱で嘔吐痛のみの陽性者や嘔吐のみで感染性腸炎様の陽性者もあり、外来での防御体制はまだまだ重要。

インフルエンザ A が外来では散発程度であるが、学校で流行中。他に感染性腸炎、帯状疱疹(登革熱除外)があった。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染症の流行は続いている。A型インフルエンザも増加してきている。普通感冒、ウイルス性胃腸炎も多い。ヘルパンギーナ、手足口病はみられなくなかった。

出典：厚生労働省HP  
<https://www.nhiw.go.jp/bunya/kenkou/kansenshou01/d/poster25a.pdf>



# 奈良県感染症情報

令和5年第2週(1月9日～1月15日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## インフルエンザの流行が始まっています

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 12月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	7.78	(3.96) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.50	(2.06) ↑	↑	→	↑↑
3	突発性発しん	0.41	(0.12) ↑	↑	↑↑	→
4	手足口病	0.35	(0.29) ↓	↓	↓	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.29	(0.21) →	→	↑	→

発生状況：大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第2週の新型コロナウイルス新規感染者数は9823名と第1週の12270名より減少していますが、高い値で推移しています。県民の皆様には引き続き3密(密集・密接・密閉)の回避や換気に加えて、マスクの適切な着用、手洗いなどの感染防止対策への協力をお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの報告数が前週に引き続き増加しています。中和保健所管内西部地域では、定点あたり報告数が13.90となり注意報開始基準の10を上回っています。その他の地域についても報告数は増加しており、注意が必要で、マスク・手洗いなどの感染予防、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけ、急な38度以上の発熱、咳や喉の痛み、全身倦怠感などのインフルエンザが疑われる症状が出た場合は、人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は各年齢で見られる。発熱と嘔吐など消化器症状の患児見られる。

インフルエンザ A 型が散見される。手足口病もまだ見られる。レバーを食した児童の細菌性腸炎があった。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザが次第に増加、コロナとインフルエンザ A 例が半々くらいに見られるようになった。特に学童で多い。まだ急増というほどではない。症状は発熱、咽頭痛で臨床上コロナとの鑑別不可。咳喘例は少なくとも、bMP、RSは減少した。

感染性腸炎も減少傾向。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染症の流行は続いている。A型インフルエンザの流行ははじまっているが、急増してきてはいない。ノロウイルス胃腸炎が増加してきた。



出典：厚生労働省HP  
<https://www.nhiw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/d/poster25b.pdf>



# 奈良県感染症情報

令和5年 第3週(1月16日～1月22日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(令和4年12月)  
毎年2月4日は風しんの日 一受けるのは今!クーポン券を配布中! ー

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	10.87	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.97	↑	↑	↑	→
3	手足口病	0.38	↓	→	→	→
4	突発性発しん	0.29	↑	↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.24	→	→	↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第3週の新型コロナウイルス新規感染者数は7193名と第2週の9923名より減少していますが、高い値で推移しています。県民のみならず、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの定点当たり報告数の「10」を上回りました。中和保健所管内西部地域では、県内でも特に報告数の多い状況が続いています。感染防止のため、マスクの着用、帰宅後の手洗いの対応をお願いします。

### ◆病原体(ウイルス)検出情報(令和4年12月)◆

検出病原体	ウイルス分離回数日での集計結果			
	北部	中部	南部	その他
ヒトパルペコ	1	1		
				臨床診断名
				急性脳症・COVID-19
				アデノウイルス感染(1)

### ◆毎年2月4日は風しんの日 一受けるのは今!クーポン券を配布中! ー◆

1962年4月2日から1979年4月1日生まれの男性の皆様へ  
あなたと、これから生まれてくる世代の子どもを守るために風しんの抗体検査と予防接種を受けましょう

- 先天性風しん症候群とは  
妊娠初期(20週以前)に風しんに感染すると、赤ちゃんが先天性心疾患・白内障・難聴を特徴とする先天性風しん症候群を持って生まれてくる可能性が高くなります。
- 対象者は風しんの抗原検査および予防接種を  
1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性は過去に公的に予防接種が行われていないため、自分が風しんにかかり、家族や周囲の人たちに広げてしまおそれがあります。  
対象の皆様には、お住まいの市区町村から、原則無料で風しんの抗体検査と予防接種を受けていただけます。対象の方は、2024年度末までに抗体検査と予防接種をお受けください。  
※クーポン券が届いていない方やクーポン券をなくされた方は、お住まいの市区町村にお問い合わせください。

参考:厚生労働省 HP  
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/ryoutu/kenkou/kekukaku/kansenshou/roubeiliv/index.html



# 奈良県感染症情報

令和5年 第4週(1月23日～1月29日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

## インフルエンザが注意報発令です!

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	13.93	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.97	↑	↑	↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.35	↑	↑	→	→
4	咽頭結膜熱	0.24	→	→	↑	↓
5	突発性発しん	0.21	→	→	→	↑↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第4週の新型コロナウイルス新規感染者数は4713名と第3週の7193名より減少していますが、高い値で推移しています。県民のみならず、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの定点当たり報告数が増加しています。特に、中和保健所管内西部地域では、県内でも特に報告数の多い状況が続いています。インフルエンザの予防には、感染経路(接触感染・飛沫感染)を断つこと、予防接種を受けたり、また、感染したときに症状が重くならないように、インフルエンザウイルスに感染しやすくなり、また、免疫力を高めておきましょう。普段から十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけ、免疫力を高めておきましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザが増えている。全例ワクチン未接種者であった。  
小学生ではコロナ感染者より多くなっている。  
感染性胃腸炎ではカンピロバクター例もあった。保育園ではノロウイルス腸炎例がある。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザが増加、現在まででは、すべてA型。  
学童が多く季節閉鎖もある。症状は短期発熱、軽症。  
COVID-19陽性者も続いてみられるがインフルエンザがやや優位であった。  
生後36日のRS感染症があり紹介入院したのが重篤経過ではなかった。  
感染性腸炎も増加、嘔吐が主のノロ症が多い。

#### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザが急増、大部分がA型が一部B型もみられる。  
COVID-19感染症の流行も続いている。インフルエンザとCOVID-19の同時感染例もみられる。  
また蔓延する発熱者ではパラインフルエンザ感染症もみられている。  
ウイルス性胃腸炎の流行も続いている。ノロウイルス陽性者が多い。



出典:厚生労働省 HP  
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekukaku-kansenshou01/keihatu.html



# 奈良県感染症情報

令和5年 第5週(1月30日～2月5日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 梅毒が増加しています！
- 1月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

### インフルエンザが注意報発令中です！

#### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	19.42	(13.93)	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	6.35	(4.97)	↑	↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.35)	↑	↑	→
4	突発性発しん	0.24	(0.21)	↑	↑	↓
5	RSウイルス感染症	0.21	(0.12)	↑↑	↑↑	↓

発生状況：大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

#### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第5週の新型コロナウイルス新規感染者数は3251名と第4週の4713名より減少していますが、高い値で推移しています。県民のみならずには、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

#### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの定点あり報告数が増加しています。特に、中和保健所管内西部地域では、定点あたり報告数が、軽微レベルである30を上回る38.70となっております。空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に、乾燥しやすい室内では加湿器などを使って適切な湿度(50～60%)を保つことも、インフルエンザの予防に効果的です。

#### ◆梅毒が増加しています！◆

「梅毒(ばいどく)」は、梅毒トレポネマ(細菌)による感染症です。近年、全国で「梅毒」の感染者が増加しており、奈良県でも報告者数は増加傾向にあります。

・梅毒は、主に性的接触によって感染し、放置すると、心臓や脳に合併症を起して死に至ることもあります。

・女性の20代～30代の感染増加により、「先天性梅毒」の報告も見られます。妊娠中の感染は胎児に大きく影響し、死産や早産、生まれてくる子供の神経や骨などに異常をきたすことがあります。

・予防には、コンドームの使用が大切です。ただし、キスやオーラルセックス、皮膚や粘膜の接触等で感染することもあります。不特定多数との性交渉は感染リスクが大きく危険です。

・感染初期に、性器や口の中にできる痛みやかゆみのない「しこり」が見られることがあります。症状があるときや、不安なときは、早めに近くの医療機関や保健所に相談しましょう。早期診断と治療が完治につながります。

#### 詳しくは「厚生労働省：梅毒」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/sisakunishi/teiryu/kenkou/kyoukou/kekaku>  
-kansenshou/saikansenshou/sybilis.htm

#### ◆小児科外来情報◆

##### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は減少傾向には至っていない。インフルエンザはA型が流行している。ウイルス性胃腸炎が保育園で発生している。クルーズ様気管支炎の兄弟例があったが原因は不明、対症療法で軽快している。

##### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19陽性者は減少しているがまだみられる。感染力はまだ強いようで1例発生すれば家族内に波及している。インフルエンザは急増中、今のところ全例A型。コロナの同時感染例はなかった。10歳代から成人までの年齢層で、嘔吐、水様下痢のノロ様感染性腸炎が流行。RS、hMP肺炎は見られず、呼吸器感染はやや減少。他の届け出疾患はなかった。

##### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行が続いている。大部分はA型だがB型も散見される。COVID-19感染は減少してきている。発熱者が多いため鑑別の対応者は減少してはいない。症状遷延例には、迅速キットでの診断漏れのインフルエンザに加え、パラインフルエンザやヒタメタニューモウイルスもみられる。ノロウイルス胃腸炎の流行も続いている。



# 奈良県感染症情報

令和5年 第6週(2月6日～2月12日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### インフルエンザが注意報発令中です！

#### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	20.20	(19.42)	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.56	(6.35)	↔	↔	↑↑
3	手足口病	0.35	(0.06)	↔	↓	→
4	RSウイルス感染症	0.32	(0.21)	↑↑	↑↑	↓
5	突発性発しん	0.21	(0.24)	→	↓	↓

発生状況：大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

#### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第6週の新型コロナウイルス新規感染者数は2212名と第5週の3251名より減少していますが、高い値で推移しています。県民のみならずには、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

#### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの定点あり報告数が増加しています。特に、中和保健所管内西部地域では、定点あたり報告数が、軽微レベルである30を上回る38.70となっております。空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に、乾燥しやすい室内では加湿器などを使って適切な湿度(50～60%)を保つことも、インフルエンザの予防に効果的です。

#### ◆小児科外来情報◆

##### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は減少傾向には至っていない。インフルエンザはA型が流行している。ウイルス性胃腸炎が保育園で発生している。クルーズ様気管支炎の兄弟例があったが原因は不明、対症療法で軽快している。

##### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19陽性者は減少しているがまだみられる。感染力はまだ強いようで1例発生すれば家族内に波及している。インフルエンザは急増中、今のところ全例A型。コロナの同時感染例はなかった。10歳代から成人までの年齢層で、嘔吐、水様下痢のノロ様感染性腸炎が流行。RS、hMP肺炎は見られず、呼吸器感染はやや減少。他の届け出疾患はなかった。

##### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行が続いている。大部分はA型だがB型も散見される。COVID-19感染は減少してきている。発熱者が多いため鑑別の対応者は減少してはいない。症状遷延例には、迅速キットでの診断漏れのインフルエンザに加え、パラインフルエンザやヒタメタニューモウイルスもみられる。ノロウイルス胃腸炎の流行も続いている。

# 奈良県感染症情報

令和5年 第7週(2月13日～2月19日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 3月1日～3月7日は子ども予防接種週間です

## インフルエンザ注意報発令中です!

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部	
		定点当たり	(前週)				増減
		1	インフルエンザ				16.58
2	感染性胃腸炎	7.09	(5.56)	↗	↗	→	
3	RSウイルス感染症	0.44	(0.32)	↗	↗	↘	
4	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.15)	↗	↘	↘	
5	突発性発しん	0.15	(0.21)	↘	↘	↗	

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第7週の新型コロナウイルス新規感染者数は1558名と第6週の2212名より減少していますが、依然として高い値で推移しています。県民のみなさまには、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザ注意報発令中です。インフルエンザの定点あたり報告数は、16.58と前週よりやや減少しているものの、まだまだ注意が必要です。感染症予防の基本である手洗いは、洗回数を増やし、石けんを使用すると効果的です。外出後は特に、流水と石けんを用いてしっかりと手を洗いましょう。

### ◆3月1日から3月7日は子ども予防接種週間です◆

## 4月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう!

- 子どもの予防接種は、赤ちゃんが母さんから受け継いだ免疫が薄れてくる時期、病気にかかりやすい年齢や重症化しやすい年齢などに応じて接種する必要があります。
- 定期接種は、病気に定められた接種期間がありますので、適切な期間内に、忘れぬように接種することが大切です。
- 子ども予防接種週間の期間中、通常の診療時間に予防接種を受けるためのため、協力医療機関等において、土曜日、日曜日なども予防接種を受けられる場合があります。(必ず、事前に医療機関にお問い合わせください。)
- 予防接種については、お住まいの市町村予防接種担当課へお問い合わせください。



出典: 令和4年度「子ども予防接種週間」の実施について(厚生労働大臣 HP) [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000193336\\_00008.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000193336_00008.html)

# 奈良県感染症情報

令和5年 第8週(2月20日～2月26日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

## インフルエンザ注意報発令中です!

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部	
		定点当たり	(前週)				増減
		1	インフルエンザ				13.55
2	感染性胃腸炎	6.91	(7.09)	↗	↗	↗	
3	RSウイルス感染症	0.26	(0.44)	↗	↗	→	
4	咽頭結膜熱	0.18	(0.00)	↗	↗	→	
4	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.18)	↗	↘	↘	

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第8週の新型コロナウイルス新規感染者数は1048名と第7週の1558名より減少していますが、依然高い値で推移しています。県民のみなさまには、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの報告数は先週に引き続き減少していますが、注意報発令基準の「10」を下回っていませんので、注意が必要です。通度を通じて(50～60%)にコントロールして気道粘膜の防御機能の低下を防ぎ、規則正しい生活や栄養バランスのとれた食事で免疫力を高めて、感染予防に努めましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

A型インフルエンザの流行は継続している。今期、B型は経験していない。新型コロナウイルス感染症は減少している印象です。ウイルス性胃腸炎は継続している。

#### 中部地区(南本内科こどもクリニック)

インフルエンザが減少してみられるが増加傾向はやや止まっている印象。すべてA型。症状は短期の高熱等の軽症経過。

COVID-19の減少してはいるがまだみられる。インフルエンザとの鑑別は難しく検査結果によっては他に嘔吐、水様下痢のノロ様感染性腸炎も流行中、時に高熱の例や、特徴といえるかも知れないが頭痛を伴う例がある。感染力は比較的強いのか、家族内感染も見られている。

乳児のロタウイルスはなかった。

RS、HMP等の呼吸器疾患は減少した。

その他の届け出疾患はなかった。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行が継続している。大部分はA型だがB型も散見される。

COVID-19感染症は減少してきている。発熱者が多いため鑑別の対応者は減少していない。

症状遷延例には、迅速キットでの診断漏れのインフルエンザに加え、パラインフルエンザやヒトメタニューモウイルスもみられる。

ノロウイルス胃腸炎の流行も続いている。

# 奈良県感染症情報

令和5年 第9週(2月27日～3月5日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(令和5年2月)
- マスク着用の考え方について
- 2月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

## インフルエンザが注意報発令中です!

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	11.13	(13.55) ↓	→	→	→
2	感染性胃腸炎	7.53	(6.91) ↑	→	→	→
3	RSウイルス感染症	0.38	(0.26) ↑	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.29	(0.18) ↑	→	→	→
5	咽頭結核熱	0.15	(0.18) ↓	↑	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減、↑急増、↑増加、→やや増加、↓横ばい、↓やや減少、↓減少

### ◆県内概況◆

第9週の新型コロナウイルス新規感染者数は659名と、令和4年第26週以来1000名を下回りました。また、インフルエンザも先週に引き続き減少していますが、未だ定点当たり報告数が11.13と高い値で推移しています。両疾患とも、基本的な感染予防対策の徹底をお願いいたします。

感染性胃腸炎が増加しています。調理を行う前や食事の前、トイレに行った後など、流水と石けんによるこまめな手洗いをいたします。

### ◆病原体(ウイルス)検出情報(令和5年2月)◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
Aデング	41	1			急性腸炎・COVID-19・アデノウイルス感染(1)
インフルエンザ	AH3	1			インフルエンザ(1)

ウイルス分離同定日までの集計結果

### ◆マスク着用の考え方について◆

令和5年3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し、マスク着用は個人の判断に委ねることとなりますが、下記の注意が必要です。

- ◎症状がある方、新型コロナウイルス感染症の検査で陽性となった方、同居する家族に陽性となった方がいる方は、周囲の方に感染を広げないために、外出を控えてください。通院などでやむを得ず外出する際には、人混みは避け、マスクの着用をお願いします。
- ◎高齢者など重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、医療機関の受診や高齢者施設などへの訪問時、混雑した電車やバスに乗る通勤ラッシュ時などはマスクの着用を推奨します。
- ◎新型コロナウイルス感染症の流行期に重症化リスクの高い方が混雑した場所に行く時については、感染から自身を守るための対策としてマスクの着用が効果的です。

#### 【参考】

厚生労働省 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansenshitasaku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansenshitasaku_00001.html)

# 奈良県感染症情報

令和5年 第10週(3月6日～3月12日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	8.53	(11.13) ↓	→	→	→
2	感染性胃腸炎	7.21	(7.53) ↓	→	→	→
3	RSウイルス感染症	0.32	(0.38) ↓	↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.26	(0.29) ↓	→	→	→
5	突発性発疹	0.24	(0.15) ↑	↑	↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減、↑急増、↑増加、→やや増加、↓横ばい、↓やや減少、↓減少

### ◆県内概況◆

第10週の新型コロナウイルス新規感染者数は540名と第9週の659名より減少しています。インフルエンザは、県内全体の定点当たり報告数が注意報基準値「10」を下回りましたが、流行の指標となる「1」を下回るまでには注意が必要です。両疾患とも、基本的な感染予防対策を心がけましょう。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、横ばいです。新型コロナウイルス感染症流行以前は、春先にロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加していました。ロタウイルスワクチンは予防接種法に基づく定期接種のワクチンですので、生後14週6日までに初回接種し、重症胃腸炎を予防しましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

新型コロナウイルス感染症は減少している。風邪症状の乳幼児に陽性例があり、迅速検査数は減少していない。  
 インフルエンザはピークを過ぎて減少している。  
 RSウイルス感染症例があった。  
 確定診断ができていない3日程度で駆けつける高熱の患児を数人経験する。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19 陽性者は減少、散発程度となってきた。  
 インフルエンザも増加傾向なく少ない状況。  
 ノロ感染症性腸炎が流行中、嘔吐、下痢、中に高熱、頭痛を伴う例もあり。  
 他の登録疾患はなかった。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症陽性者は減少している。  
 インフルエンザ A 型感染症の流行は続いているものの、実数は減少してきている。B 型の流行はみられていない。  
 ウイルス性胃腸炎の流行は続いている。ノロウイルス陽性を認めている。  
 遷延する呼吸器感染症からはパラインフルエンザや従来のコロナウイルスが検出されている。



出典: 厚生労働省「マスクの着用について」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansenshitasaku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansenshitasaku_00001.html)

# 奈良県感染症情報

令和5年 第11週(3月13日～3月19日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 3月24日は世界結核デー

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	7.26	(7.21) →	→	→	↓
2	インフルエンザ	7.25	(8.53) →	→	↓	→
3	RSウイルス感染症	0.59	(0.32) ↑	↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.24	(0.26) →	↑	→	↑
4	突発性発しん	0.24	(0.24) ↑	↑	→	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

第11週の新型コロナウイルス新規感染者数は578名と、第10週と比べ横ばいです。インフルエンザの報告数は第10週より減少していますが、定点当たり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要です。両疾患とも、基本的な感染症予防対策の徹底を改めてお願いいたします。 感染性胃腸炎が増加しています。感染性胃腸炎は細菌やウイルスなどの病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因の一つであるノロウイルスは、感染力が非常に強く、少ないウイルス量で感染します。感染者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれており、下痢等の症状がなくなっても、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあるので、症状が改善した後も注意が必要です。調理を行う前や食事の前、トイレに行った後など、流水と石けんによるこまめな手洗いを行いましょう。

### ◆3月24日は世界結核デー◆

～世界結核デー2023のテーマは、「Yes! We can end TB!」～

1882年3月24日にドイツの細菌学者ロベルト・コッホが「結核菌の発見」を学会で発表した日にちなみ、WHO(世界保健機関)はこの日を「世界結核デー」と定めました。結核問題の重要性、結核対策の強化の必要性について、毎年、世界各地で結核の啓発活動が行われています。

日本の2021年の結核罹患率は9.2となり、罹患率10.0未満とする低まん延の水準を達成しましたが、結核は今でも年間1万人以上の新規患者が発生し、約2000人が死に至る主要な感染症です。奈良県でも令和3年に121人の方が新たに結核と診断されています。

- ◎早期発見・早期治療が重要  
長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど風邪のような症状で、早期には目立たないことが多いこと、高齢者や小児では気づかないうちに進行してしまうことがあります。2週間以上、症状が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。結核が進行すると咳やくしゃみやよみによって周りの人への感染リスクが高まります。
- ・早期発見のため、定期的に胸部エックス線検査を受けましょう
- ・小児の重症化予防には、BCGワクチン(定期接種)が有効です

#### 【参考】

厚生労働省「結核(BCGワクチン)」  
<https://www.nhiw.go.jp/stf/seisakunitsuite/hunyu/kenkou/kenkou/kekaku/kekaku-kansenshou03/index.html>  
公益財団法人結核予防会「結核研究所」  
<https://jita.or.jp/index.php>  
公益社団法人日本WHO協会「2023 世界結核デー」  
<https://japan-who.or.jp/news-releases/2303-19/>

# 奈良県感染症情報

令和5年 第12週(3月20日～3月26日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	6.09	(7.25) →	→	↓	↑
2	感染性胃腸炎	5.68	(7.26) →	→	↓	↑
3	RSウイルス感染症	0.59	(0.59) ↑	↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.38	(0.24) ↑	↑	→	↑
5	突発性発しん	0.24	(0.24) ↑	↑	→	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆県内概況◆

第12週の新型コロナウイルス新規感染者数は490名と、第11週の578名より減少しています。インフルエンザの患者報告数は減少傾向ですが、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは注意が必要です。新型コロナウイルスや季節性インフルエンザなどの感染症は、咳やくしゃみや目の飛沫により感染することがあります。他の人につうつしてしまわないよう、咳やくしゃみをする際には、口や鼻をおさえる「咳エチケット」を実践するようにしましょう。咳やくしゃみを手でおさえず、その手で触ったドアノブなど周囲の物にウイルスが付着してしまいます。マスクをしないときにはティッシュペーパーやハンカチなどで口や鼻を覆うようにし、とっさのときには上着の内側や袖で覆うようにしましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は減少している。インフルエンザの患者数は週により増減している。 感染性胃腸炎は減っている。 RSウイルス感染症は流行の始まりかもしれない。生後1か月の乳児は管理入院となった。 他の届出疾患は無かった。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザは減少した。 COVID-19例は減少した。 インフルエンザは増加はしないが少ずつ持続。すべてA型。 嘔吐が主のノロ様感染性腸炎が流行。水様下痢を伴う例もある。 乳児でRS陽性例が散発してみられる。今冬他の届け出疾患はなかった。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は減少。散発的にみられるのみ。 インフルエンザ Aも減少傾向はあるも、まだ流行は減っている。 ノロウイルス等の胃腸炎は増加している。 他の呼吸器感染症は多く、一部の遷延がみられる。

